

みんなねつと全国大会IN広島

去る10月13日・14日に行われた「2022年度第14回みんなねつと全国大会」が広島県で開催され、はまゆう家族会もオンライン視聴を行いました。



「愛と自立を語ろう」をテーマに掲げ、趣旨説明では、精神障がい者一人ひとりが尊重され、自立して家庭を持ち、地域で安心して社会生活を送ることができ、共生社会の実現に向けた取り組みの、促進を目指してとたわれていました。基調講演では、広島県自立支援協議会会長の石井知行氏が「地域において精神障がい者が安心して暮らせるために」というテーマで講演されました。先生の一言一言に当事者や家族への寄り添いが感じられ、お話を心より共感いたしました。先生は、地域包括ケアシステム構築のために検討会で、保健・医療・福祉体制の充実や諸制度の見直しを提言されています。地域において、その人がその人らしく、少しでも安定した生活ができる制度を設立するために重要なこと2点がある。1点目は「当事者を支える家族に対する支援が必要」

もう1点は「社会の種々の差別偏見に傷つき、社会的な不利益を被っている当事者・家族が安心して地域生活をおくるためには、差別偏見を解消するための諸政策が必要である。障害者差別解消法は、一定程度の成果をあげたが、不十分な側面もあり、更に差別解消禁止を発展強化させる必要がある。」と言われました。

私も子供以外のある当事者との関わりの中で、行政担当者の精神障がい者への無理解と偏見に唖然としたことがありま

す。国の法律は立派な法律が整っていますが、地域社会に周知徹底されることが大切であり、私たち家族会や関係者が当事者とともに声にしていき、希望を捨てずに、精神障がい者施策の充実を目指してまいりたいと思います。

大会「ご当地広島の被爆体験者である、八幡照子様の力強いお話に勇気をいただきました。戦争の悲惨さと生命の尊さ、核の恐ろしさを今この時に伝えて下さり、感謝申し上げます。ありがとうございます。」はまゆう家族会 川本 茂子

みんなねつと九州大会IN大分

コロナ禍での九州沖縄ブロック大会が11月17日18日に開催されました。3年ぶりに対面交流で開催ということに加え、リモート版での「家族による家族学習会」で大分の家族会の方々と一緒に取り組んできたこともあり、直接大分の家族会の皆さんに会えることに気持ちが昂り、大きな期待を持って参加しました。

会場に着くと皆さんが温かく迎えてくださり、直接会えた嬉しさに満ちたさ。オープニングのオカリナ演奏では、あんなに小さな楽器から紡ぎだされる音色の美しさに驚きました。基調講演は、みんなねつと福岡久実子理事長から『みんなが笑顔で元気になる家族会活動とは』と題し、自らの体験を通して家族会活動で工夫してきたこと、大切にしてきたこと、そして家族会のこれからを考えた、お話ししてくださいました。

「大切なことは、家族会が重要な社会資源だと確信を持つ人があきらめないこと」

高齢化が進み会員数が減っていく家族会が多い中、家族会の基本を改めて気づかされました。先輩方が大切に築いてきた家族会という宝をしっかりと受け継ぎ、これからも楽しく温かく、無くてはならない家族会として活動していきたいと決意を新たにしました。

二日目は、特別研修会「当事者はなぜ親にあたるの？」精神障がい当事者と家族の相互理解プログラムのDVDを会場で見ました。その中の「振り返りタイム」では、会場参加者はグループに分かれ、それぞれで振り返りをしました。持ち時間15分ほどでしたが、初めて会った者同士とは思えないほど、たくさん意見が出て充実した時間が持てました。

会場が温泉施設で、お料理もおいしく、温泉にもゆったり浸かることができ、至れり尽くせりのこの上なく楽しく有意義で大満足の二日間でした。

福精連理事 隅谷和生

北九州ブロック合同スポーツ大会

10月28日、さわやかな秋空の下、コスモス揺れるグリーンパーク（北九州市立響灘緑地）で、スポーツレクリエーション大会北九州ブロック大会を実施しました。

当日は、事業所・家族会7団体59名の皆さまが参加してくださいました。福精ブロック長の挨拶の後、午前中は昨年好評だったフィールドビンゴで今年も汗を流しました。問題が簡単すぎたのか、競技参加者の7割強がパーフェクトと好成績が続出したため順位がなかなか付けられず、パーフェクト賞やビンゴ賞の賞品はなんと「じゃんけん大会」で争奪戦と相成りました。でも、グリーンパークの秋の自然をしっかりと満喫していたのだいたかな。

団体の部では、1位が「なないろ」と「ひまわり」、3位は「なおみの会」共同作業所でした。



午後からは、「秋のエリーゼ音楽会」でピアノ・ギター・ドラムの演奏で、懐かしい歌や最近の歌を大きな声で合唱しました。差し出したマイクにソロで歌ってくれたり、あつぎ会スタッフが恥ずかしながら披露した「パブリカ」のダンスには、みなさんが歌ったり、踊ったりいぶん応援してくれました。最後の「上を向いて歩こう」にはステージ前で肩を組んで歌う方もおられ、大盛り上がり。音楽会は時間的に厳しくいかなと思っていきましたが、みなさんの手拍子や歌声に、やってよかったなあと思いました。

「ありがとう」の曲でみなさんを見送っていると、「また、来年ね」とみなさんにこやかに手を振ってくれました。みなさん、また、来年会いましょうね！

あかつぎ会家族会 福山 一樹

いとしま会 会長 山下悦子

いとしま会は、糸島地区にある唯一の精神障がい者の家族会です。

平成8年3月29日にいとしま会の総会で承認され、家族会として発足しました。平成10年には、共同作業所「いとしま工房」を立ち上げ、平成18年まで支援運営にあたりました。現在作業所の運営は、NPO法人に移っています。地域での精神保健福祉事業に積極的に参加しています。月1回の定例会は、家族同士の話し合いの場であり、お互いの悩みや思いを、心を聞いて語り合い、日々当事者との対応の中で生まれる悩みや、葛藤について、様々な角度からの意見や体験を伝え、学び合い、そして励まし合う大事な時間です。しかし、コロナ禍で、集まって開催できない時には、電話で声を聞き、仲間同士の繋がりを大事にしています。

私は平成28年に前会長より引き継ぎ、少ない人数の家族会ですが、助け合い研修会や行政の行事等に参加しています。

いとしま会の総会も今年で23回目を迎えました。コロナ禍にて書面対応に、例年は講話を次第に盛り込み、家族会にとって大切なテーマ、欠かせない課題として多くの事を学んでいます。先日福精連大会では、家族会でZOOM参加しました。高森先生の講話には皆さん感動して元気を頂き、心新たに気持ちになる事ができました。現在、家族会の当事者さんが4名グループホームで暮らしています。私の長男もコロナ禍の中で、グループホームに入居することができました。発症から長男に寄り添い歩き続けてきた26年間、振り返れば、一番大変な時は幻聴との闘いでした。それでも今は少し落ち着き、グループホームでの自分の生活を保ちながら、仲間と暮らしています。

先日定例会では家族会の皆さんと一緒に、糸島歴史資料館へ見学へ行き、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。これからも次の世代に引き継ぐためにも、いとしま会は地域活動支援センターや他の支援団体とも交流を深めながら皆さんと共に歩み続けていきます。

第3回家族・職員研修会

「家族相談業務のスキルアップ」

令和5年1月19日（木）
13時半～15時半
会場：吉塚合同庁舎5F
講師：高村 裕子氏

会場とオンラインの併用です。
参加希望の方は福精連までご連絡ください。 fksr1974@fukuseiren.com

公明党との要望懇談会

去る11月26日、公明党福岡県本部に於いて、毎年開催されている政策要望懇談会が今年も開催され、公明党からは、濱崎県議会議員、森下県議会議員、濱崎県議会議員、松下県議会議員が出席され、福精連からは、一木会長、白石副会長、福田副会長、榎橋が出席して要望意見を述べてまいりました。

冒頭、一木会長から森下・濱崎両県議のご尽力で、福岡・北九州高速道路公社に対し県知事から精神障がい者にも都市高速道路の料金割引実施を検討するよう要望していただいたことに御礼を申し上げます。

冒頭、一木会長から森下・濱崎両県議のご尽力で、福岡・北九州高速道路公社に対し県知事から精神障がい者にも都市高速道路の料金割引実施を検討するよう要望していただいたことに御礼を申し上げます。（左上へつづく）



福精連も！
運動（働きかけ）は、家族会活動の三本柱の一つです。今後要望が実現するまで粘り強く運動してまいります。

副会長 榎橋 恭一